

組み合わせの文法ときもちの文法

講師 定延利之先生

講演内容

これまでの文法は、ただひたすら「組み合わせの文法」であった。ことばはことばと組み合わせたり、状況と組み合わせられて発せられる。ことばが不自然だとすれば、それは、組み合わせが何らかの形で(つまり音声学的に／音韻論的に／形態論的に／統語論的に／意味論的に／語用論的に)悪いのだと考えられてきた。本当にそうだろうか？ 本当にそれだけなのだろうか？ 実はことばの不自然さは、「組み合わせ不全」によるものの他に、「きもち欠乏症」によるものがあるのではないか？ きもちが現れていないことを理由に、ことばが不自然になることもあるのではないか？ この講演では、我々の日常的な話しことばの観察を通して、「組み合わせの文法」とは別に「きもちの文法」を認めるべきことを実証的に示した上で、2つの文法を融合させることによって現代日本語共通語発話の文法的目録を作成するという、現在進行中の作業現場を紹介したい。

プロフィール

神戸大学名誉教授。京都大学文学研究科教授(2017年～)。専門は日本語を中心とした言語・コミュニケーション研究。京都大学文学研究科博士課程修了、博士(文学)。軽視・無視されがちな「周辺的」な現象の考察を通じて、言語とコミュニケーションの研究の前提に再検討を加えている。主要業績:『文節の文法』(2019年、大修館書店)、『「キャラ」概念の広がりと深まりに向けて』(編著、2018年、三省堂)、『限界芸術「面白い話」による音声言語・オラリティの研究』(編著、2018年、ひつじ書房)、『コミュニケーションへの言語的接近』(2016年、ひつじ書房)、『日本語学と通言語的研究との対話』(編著、2014年、くろしお出版)、『日本語社会のぞきキャラくり』(2011年、三省堂)、『煩惱の文法』(2008年、筑摩書房、[増補版]2016年、凡人社)、『文と発話1～3』(編著、2005～2008年、ひつじ書房)、『ささやく恋人、りきむレポーター』(2005年、岩波書店)、『「うん」と「そう」の言語学』(編著、2002年、ひつじ書房)、『認知言語論』(2001年、大修館書店)。

2020年2月15日(土) 15:30～17:00

関西学院大学 G号館 326号教室

入場無料 事前予約不要

どなたでもお気軽にお越しください。

主催：言語コミュニケーション文化学会

